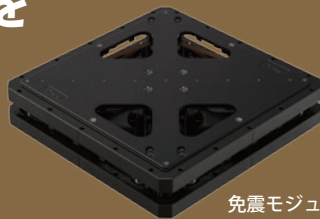


静岡市立 清水病院

静岡県静岡市

心の通った医療のご提供を目標に
病院機能の整備を
進めます

診療技術部 検査技術科
科長
はぎわら まさとし
萩原 正寿 様



免震モジュール TGS



地域住民に信頼される医療の提供を目指して

私ども静岡市立清水病院は、1933年(昭和8年)に伝染病院として開設され、現在では清水地区(人口約23万人)の基幹病院となっています。

「患者中心の良質な医療を提供するとともに、地域医療の向上に貢献することを目指します」を基本理念に掲げ、地域医療の活性化に取り組んでいます。例えば、退院されご自宅に戻られた患者さんに対しては、かかりつけ医や訪問看護のケアスタッフの方々と連携し、情報を絶えず共有化することで地域医療機関全体でのフォローを行っています。一方、県や市の協力を得て、災害拠点病院としての機能強化にも努めています。

輸血検査装置とは

私が所属する検査技術科には7つの部門があり、生理検査、尿一般検査、輸血検査、生化学検査、血液検査、細菌検査、病理検査を行っています。治療に必要な検査を行い、患者さんの健康状態や治療状況の確認等、病気の原因究明に重要な役割を担っています。

人間の体は自分とは違った異物が体内に入り込むと、体から追い出す性質を持っています。輸血検査装置は同じ血液型でも副作用が起きないかを患者さんの血液と混ぜ合わせて事前に不適合をチェックする機械です。当装置は日中5~6時間は稼動、また

免震装置を設置した
全自動輸血検査装置

た夜間・休日の緊急手術等に備えて24時間スタンバイ状態にあります。特に妊婦さんは、自分とは異なる血液型(ABO式以外も含め)を持った胎児が体内に存在することで血液型関連の抗体が作られる可能性があります。

出産時の大量出血に備

え、当院で出産する全ての妊婦さんは36週の定期健診時に輸血検査を実施しております。36週で検査を実施する意味は、この時期には胎児からの影響も落ち着いているからです。

最近では、自分の血液を輸血に使う(自己血輸血)という選択肢もありますが、貯血量の問題もあり出産時の大量出血には対応しきれない場合があります。その為に輸血検査は不可欠です。

災害拠点病院としての機能強化に向けて

東日本大震災や熊本地震の被害状況からも、免震装置導入前に行っていた、床への固定方式による地震対策では不十分であることは明らかです。震災で輸血検査装置が稼動せず、人の手で検査を行うと何倍もの時間を要し、急を要する輸血には間に合いません。また災害下では人為的ミスも起こり易く、患者さんの命に関わる事態につながる恐れがあります。病院の機能を直ちに正常に戻すとともに、医療機器が被害に遭わないよう日頃からBCP対策を講じることは私ども医療機関の使命です。免震装置は大地震に対し、揺れを受け流して機器へのダメージを軽減させる有効な手段です。過去に起きた大きな震災時にTHKの免震装置を導入していた機関の性能評価、また当院内の医療情報システムサーバーにすでに導入されていたこともあり、今回の全自動輸血検査装置の入れ替えを機に免震装置の導入に踏み切りました。

今後は生化学検査装置にも免震装置を取り付ける予定です。2011年に最大震度6強を観測した大地震以来、幸い当院が避難所となる震災は起きていません。しかし「仙台防災枠組2015-2030」の観点からも、各地域の中核病院は地震による被害を最小限に留め、また病院本来の役目である患者さんの命を守るため、サーバや院内設備への免震装置導入は必要だと考えます。